

I 施設の概要		施設コード		S05-01-03		
施設名		ムーブ町屋				
所在地		荒川七丁目50番9号 センターまちや3階・4階				
部課名		地域文化スポーツ部文化交流推進課				
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容(単位:千円)			
			国・都	区債	一般財源	
	建築	平成8年	4,970,000	0	3,470,000	1,500,000
	増改築①					
	増改築②					
併設施設		-				
竣工年月日				区職員	その他	
供用開始年月日		平成8年6月1日	職員数	0人	11人	
構造		SRC造	階層	地上22階、地下2階の内、3・4階部分		
面積	敷地面積	3221.29㎡の一部				
	延床面積	25557.45㎡の内、2201.11㎡				
設置目的・経緯		区民文化の向上と地域のコミュニティ活動の促進を図る。				
関連部署		土木管理課、就労支援課、区民課				
根拠法令等 設置条例		荒川区ムーブ町屋条例及び条例施行規則				
駐車場の状況		1台	バリアフリー	● エレベーター	● トイレ	
駐輪場の状況		22台	対応状況	○ 点字ブロック	○ スロープ	



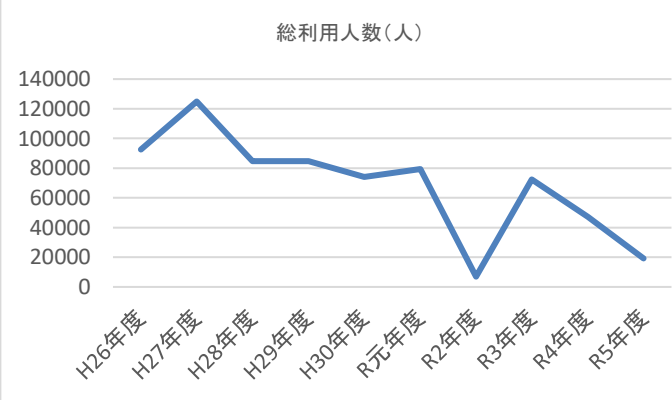
管理形態	指定管理	(株) コングレ	期間	令和5年4月1日 令和10年3月31日	から まで	
事業内容	○施設の利用に関する事業（利用等の承認・不承認・取消、利用料金の収納・減免・還付を含む） ○文化活動及び地域コミュニティ活動に関する相談及び情報の提供に関する事業 ○その他区長が必要と認める事業					
対象者	区民及び施設利用者					
運営時間等	運営時間	午前9時～午後10時まで				
	休日	年末年始（12月29日～1月3日）及び工事、保守点検日				
施設基本データ等		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度（見込み）
	総利用人数（人）	6,920	72,444	47,178	19,167	50,000
	ホール年間利用者数（人）	3,874	14,054	28,591	15,664	40,000
	スタジオ年間利用者数（人）	446	1,621	1,818	957	1,800
	ムーブホール稼働率（％）	5	33	57	65	70
	スタジオ稼働率（％）	12	54	46	45	50
	催し物利用状況（件）	309	740	844	566	700
に指定 用係等 管理 費理	指定管理料（千円）	34,643	41,349	40,446	34,994	36,612
	指定管理者の支出合計（千円）	58,520	64,705	66,410	46,481	59,113
	指定管理者の人件費（千円）	35,974	40,186	38,336	24,620	31,492
	指定管理者の利用料金収入（千円）	13,569	19,373	23,855	10,424	26,944
備考	令和5年度は半年間の工事休館により、前年度と比べると、利用人数及び稼働率が低下した。					

行政コスト計算書	勘定科目			R4年度	R5年度	差額	勘定科目			R4年度	R5年度	差額
	行政費用	給与関係費		0	0	0	行政収入	地方税等		0	0	0
		物件費		43,457	40,040	▲ 3,417		国庫支出金		45	0	▲ 45
		維持補修費		1,497	165	▲ 1,332		都支出金		0	0	0
		扶助費		0	0	0		分担金及び負担金		0	0	0
		補助費等		59,159	51,380	▲ 7,779		使用料及び手数料		0	0	0
		減価償却費		91,001	71,609	▲ 19,392		その他		16,053	51	▲ 16,002
		不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	0	0		行政収入合計(a)		16,098	51	▲ 16,047
		賞与・退職給与引当金繰入額		0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)		▲ 179,016	▲ 163,143	15,873
		その他行政費用		0	0	0		金融収支差額(d)		0	0	0
行政費用合計(b)			195,114	163,194	▲ 31,920	通常収支差額(c)+(d)=(e)			▲ 179,016	▲ 163,143	15,873	
特別費用(g)			0	0	0	特別収入(f)			0	2,260	2,260	
特別収支差額(f)-(g)=(h)			0	2,260	2,260	当期収支差額(e)+(h)			▲ 179,016	▲ 160,883	18,133	
貸借対照表	勘定科目			R4年度	R5年度	差額	勘定科目			R4年度	R5年度	差額
	流動資産	収入未済		0	0	0	流動負債		0	0	0	
		不納欠損引当金		0	0	0		還付未済金		0	0	0
		その他の流動資産		0	0	0		特別区債		0	0	0
	固定資産	有形固定資産		2,430,025	2,318,559	▲ 111,466	賞与引当金		0	0	0	
		土地		1,516,648	1,516,648	0		その他の流動負債		0	0	0
		建物		3,370,397	2,806,964	▲ 563,433		固定負債		0	0	0
		建物減価償却累計額		▲ 2,457,019	▲ 2,005,052	451,967	特別区債		0	0	0	
		工作物等		0	0	0	退職給与引当金		0	0	0	
		工作物等減価償却累計額		0	0	0	その他の固定負債		0	0	0	
		無形固定資産		0	0	0	負債の部合計		0	0	0	
		建設仮勘定		24,048	2,260	▲ 21,788	正味財産		2,454,073	2,320,819	▲ 133,254	
		その他の固定資産		0	0	0	正味財産の部合計		2,454,073	2,320,819	▲ 133,254	
	資産の部合計			2,454,073	2,320,819	▲ 133,254	負債及び正味財産の部合計			2,454,073	2,320,819	▲ 133,254
	備考	物件費の主な内訳は指定管理者委託料である。補助費等の主な内訳はセンターまちや管理運営費である。補助費等の差額は、町屋区民事務所の移転に伴い、管理運営費の負担金額を区民課と按分したことにより減額となったことが主な要因である。										

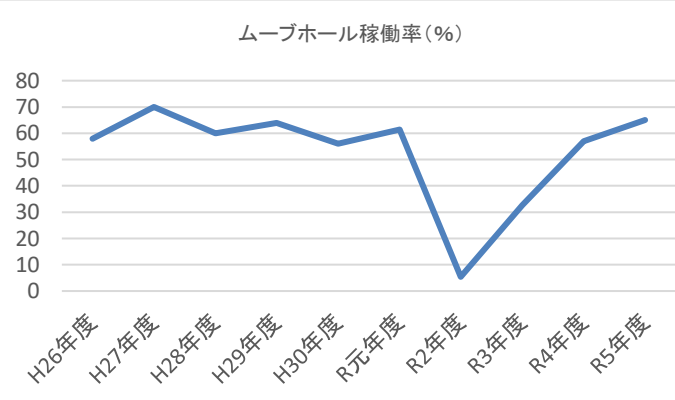
	指標	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	68	70	72.9	71.4	71.4
	1㎡当たりコスト(円)	71,234	68,558	88,643	74,142	74,142
	人にかかるコストの割合(指定管理)(%)	62	62	57.7	53.0	53.3
	受益者負担比率(%)	6	9	10.8	6.0	12.1
	利用者1人当たりのコスト(円)	28,794	2,838	4,136	8,514	3,264
	開館1日当たりのコスト(円)	555,022	572,652	543,493	454,579	454,579
	区民1人当たりコスト(円)	918	884	898	751	751
備考	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により稼働率が大幅に低下したため、開館1日当たりのコスト、利用者1人当たりコスト、区民1人当たりコストが増加した。令和3年度以降は、令和2年度と比較して、稼働率の回復・上昇に伴い、コストも減少している。					

IV 施設運営の方向性（所管の考え方）

計画の有無	● 無 ○ 有（計画名： ）					
目標指標	指標名・単位		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		目標値	5,000	20,000	80,000	75,000
		実績値	6,920	72,444	47,278	19,167
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ○ 民営化 ○ 他施設との統合 ○ 廃止 ● 現状維持 ○ その他()					
管理形態の変更の推移	● 有（変更内容：平成8年度：荒川区地域振興公社へ運営委託、平成18年度：指定管理者制度導入） ○ 無					
利用者・地域のニーズ	施設利用者へのきめ細やかな対応					
現状・課題	○施設全体の老朽化が目立ち始めているため、適切な保守による維持管理に努める必要がある。修繕実施にあたっては、指定管理者とセンターまちや管理組合との連絡・調整が必要である。 ○利用者から日々寄せられる多様化するニーズへの対応が求められる。 ○地域の賑わい創出及び利用者の拡大を図るため、自主事業等の積極的な企画・実施が求められる。 ○日々の運営について町屋区民事務所と連携をし、円滑な施設運営に努める。					
課題に対する現時点での考え	○施設をはじめ、町屋区民事務所や関係部署とも調整し、今後の修繕計画について検討する。 ○利用者のニーズに柔軟に対応していけるよう、指定管理者と施設管理やサービス向上策について緊密な連携を図っていく。 ○施設稼働率の向上及び利用者数の増加に向けた取り組みを指定管理者と協議し、検討していく。					
議会、利用者等からの意見						



令和5年度は半年間の工事休館の影響により、利用人数が減少となった。



令和2年度は、緊急事態宣言による施設の休館等があったため稼働率が大幅に低下したが、令和3年度以降は感染状況の改善に伴い、上昇に転じた。

I 施設の概要		施設コード	S05-01-01			
施設名	区民会館（サンパール荒川）					
所在地	荒川一丁目1番1号					
部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課					
施設の履歴	時期	建築費 (単位：千円)	財源内容（単位：千円）			
			国・都	区債	一般財源	
	建築	昭和50年	1,950,000			
	増改築①	平成4年	1,540,000	0	0	1,540,000
増改築②	平成27年	2,460,000	110,000	1,940,000	410,000	
併設施設						
竣工年月日	昭和50年3月26日		区職員	その他		
供用開始年月日	昭和50年3月26日	職員数	0	37		
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造	階層	地下1階、地上6階			
面積	敷地面積	4279.01㎡		㎡		
	延床面積	10044.09㎡		㎡		
設置目的・経緯	区民の文化振興のため					
関連部署						
根拠法令等 設置条例	荒川区民会館条例					
駐車場の状況	18台	バリアフリー	● エレベーター	● トイレ		
駐輪場の状況	111台	対応状況	● 点字ブロック	● スロープ		



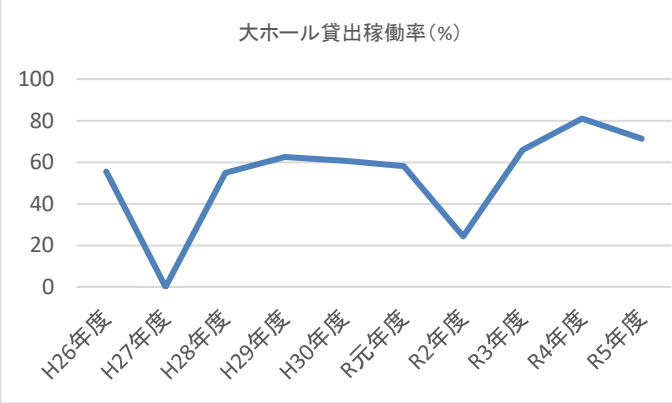
管理形態	指定管理	(株)ケイミックスパブリックビジネス	期間	令和5年4月1日	から	
				令和10年3月31日	まで	
事業内容	○施設の利用に関する事業（利用等の承認・不承認・取消、利用料金の収納・減免・還付を含む） ○文化活動及び地域コミュニティ活動に関する相談及び情報の提供に関する事業 ○その他区長が必要と認める事業					
対象者	区民及び施設利用者					
運営時間等	運営時間	午前9時から午後10時まで				
	休日	年末年始（12月29日～1月3日）及び工事、保守点検日				
施設基本データ等		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度（見込み）
	大ホール年間利用者数（人）	28,519	57,443	91,958	130,343	130,500
	小ホール年間利用者数（人）	14,747	19,002	28,593	42,063	42,500
	集会室年間利用者数（人）	19,349	83,044	89,397	67,767	68,000
	大ホール貸出稼働率（％）	24	66	81	71	75
	小ホール貸出稼働率（％）	31	56	65	67	70
	集会室貸出稼働率（％）	20	59	56	44	50
	催し物利用状況（件）	344	708	723	665	700
に指定管理に係る費用等	指定管理料（千円）	129,498	146,132	150,258	167,815	176,325
	指定管理者の支出合計（千円）	194,594	214,636	230,480	233,359	241,651
	指定管理者の人件費（千円）	36,117	36,552	32,592	31,611	39,733
	指定管理者の利用料金収入（千円）	76,746	84,352	97,261	88,411	68,377
備考	令和4年度以降、新型コロナウイルス感染症の感染状況の改善等に伴い、また、新規利用者の定着等により、ホールの利用が増え、コロナ禍前より高い稼働率となっており、令和5年度の新型コロナ感染症5類移行後は、大・小ホールともに利用者数の増加が顕著となった。					

行政コスト計算書	勘定科目			R4年度	R5年度	差額	勘定科目			R4年度	R5年度	差額
	行政費用	給与関係費	0	0	0	行政収入	地方税等	0	0	0		
		物件費	175,291	182,940	7,649		国庫支出金	282	0	▲ 282		
		維持補修費	0	10,200	10,200		都支出金	0	0	0		
		扶助費	0	0	0		分担金及び負担金	0	0	0		
		補助費等	410	60	▲ 350		使用料及び手数料	1,571	2,957	1,386		
		減価償却費	582	1,010	428		その他	13,282	10,782	▲ 2,500		
		不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0		行政収入合計(a)	15,135	13,739	▲ 1,396		
		賞与・退職給与引当金繰入額	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 161,148	▲ 180,471	▲ 19,323		
		その他行政費用	0	0	0		金融収支差額(d)	▲ 2,764	▲ 2,503	261		
行政費用合計(b)			176,283	194,210	17,927	通常収支差額(c)+(d)=(e)			▲ 163,912	▲ 182,974	▲ 19,062	
特別費用(g)			0	0	0	特別収入(f)			0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)			0	0	0	当期収支差額(e)+(h)			▲ 163,912	▲ 182,974	▲ 19,062	
貸借対照表	勘定科目			R4年度	R5年度	差額	勘定科目			R4年度	R5年度	差額
	流動資産	収入未済	0	0	0	流動負債		194,752	194,870	118		
		不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0		
		その他の流動資産	0	0	0		特別区債	194,752	194,870	118		
	固定資産	有形固定資産	141,378	140,950	▲ 428	賞与引当金	0	0	0			
		土地	125,538	125,538	0	その他の流動負債	0	0	0			
		建物	1,971,187	1,971,187	0	固定負債	754,396	559,525	▲ 194,871			
		建物減価償却累計額	▲ 1,955,347	▲ 1,955,775	▲ 428	特別区債	754,396	559,525	▲ 194,871			
		工作物等	0	0	0	退職給与引当金	0	0	0			
		工作物等減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0			
		無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	949,148	754,395	▲ 194,753			
		建設仮勘定	0	0	0	正味財産	▲ 785,358	▲ 591,615	193,743			
		その他の固定資産	22,412	21,830	▲ 582	正味財産の部合計	▲ 785,358	▲ 591,615	193,743			
		資産の部合計			163,790	162,780	▲ 1,010	負債及び正味財産の部合計			163,790	162,780
	備考	物件費の主な内訳は指定管理者委託料、維持補修費の主な内訳は動力盤改修工事費である。行政収入のその他は指定管理者からの利益納付金（収支差額の1/2）や光熱水費受入である。5年度から2階ギャラリーの運営をACCから指定管理者に移行したことにより、前年度より減となっている。										

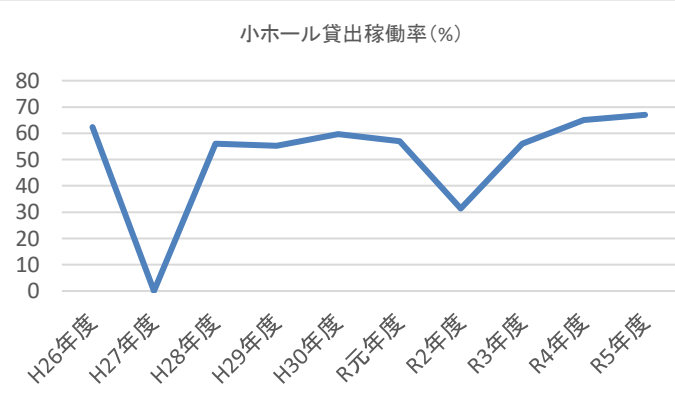
	指標	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	100.0	100.0	99.2	99.2	99.2
	1㎡当たりコスト(円)	23,794	17,902	17,551	19,336	19,336
	人にかかるコストの割合(指定管理)(%)	19	17	14	13.5	16.4
	受益者負担比率(%)	25	34	38	34.0	26.3
	開館1日当たりコスト(円)	665,716	500,872	491,039	540,975	540,975
	利用者1人当たりコスト(円)	3,817	1,127	840	809	806
	区民1人当たりコスト(円)	1,100	828	811	894	894
備考	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により稼働率が大幅に低下したため、開館1日当たりのコスト、利用者1人当たりのコスト、区民1人当たりコストが増加した。令和3年度以降は稼働率の回復・上昇に伴い、コストも減少した。					

Ⅳ 施設運営の方向性（所管の考え方）

計画の有無	● 無 ○ 有（計画名： ）					
目標指標	指標名・単位		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	利用人数	目標値	100,000	250,000	250,000	250,000
		実績値	62,615	159,489	209,948	240,173
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ○ 民営化 ○ 他施設との統合 ○ 廃止 ● 現状維持 ○ その他()					
管理形態の変更の推移	● 有（変更内容：平成2年度：荒川区地域振興公社へ運営委託、平成18年度：指定管理者制度導入） ○ 無					
利用者・地域のニーズ	施設利用者へのきめ細やかな対応					
現状・課題	○平成4年度（第1回）、平成27年度（第2回）に大規模改修を実施した。 ○施設の老朽化を踏まえ、計画的に修繕を行う等、施設の保全に努める必要がある。 ○敷地の一部が東京都市計画道路補助線街路第90号線の予定地であるため、整備後に施設運営に支障がでないよう、関係機関と調整を図る。 ○多様化する催事内容・利用者ニーズ等へ柔軟に対応することが求められる。 ○さまざまな事業を実施し、区民が芸術・文化に親しむことができる環境を整備する必要がある。					
課題に対する現時点での考え	○都市計画道路整備の影響が最小限となるよう関係機関に要請していく。 ○利用者ニーズに柔軟に対応できるよう、指定管理者と施設の運営方法やサービス向上策について緊密な連携を図っていく。 ○ラウンジを活用した賑わい創出や自主事業のさらなる充実等について、指定管理者と協議をしていく。					
議会、利用者等からの意見	平成27年度9月会議 「荒川区民会館の長寿命化について」 令和2年度9月会議 「サンパール荒川の今後の在り方について」					



令和2年度は、緊急事態宣言による施設の休館等があったため稼働率が大幅に減少したが、令和3年度以降は感染状況の改善等に伴い、増加に転じた。



令和2年度は、緊急事態宣言による施設の休館等があったため稼働率が大幅に減少したが、令和3年度以降は感染状況の改善等に伴い、増加に転じた。

I 施設の概要		施設コード	S05-01-02			
施設名	日暮里サニーホール					
所在地	東日暮里五丁目50番5号 ホテルラングウッド4階・5階					
部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課					
施設の履歴	時期	建築費 (単位：千円)	財源内容（単位：千円）			
			国・都	区債	一般財源	
	建築	平成元年	2,000,000	0	0	2,000,000
	増改築①					
	増改築②					
併設施設	-					
竣工年月日				区職員	その他	
供用開始年月日	平成元年2月9日	職員数		0人	11人	
構造	SRC造	階層	地上13階、地下3階の内、4・5階部分			
面積	敷地面積	3100.03m ² の一部				
	延床面積	23562.71m ² の内、2311.28m ²				
設置目的・経緯	区民文化の向上と地域のコミュニティ活動の促進を図る。					
関連部署	経理課					
根拠法令等 設置条例	日暮里サニーホール条例及び条例施行規則					
駐車場の状況	3台	バリアフリー	● エレベーター	● トイレ		
駐輪場の状況	無	対応状況	○ 点字ブロック	○ スロープ		



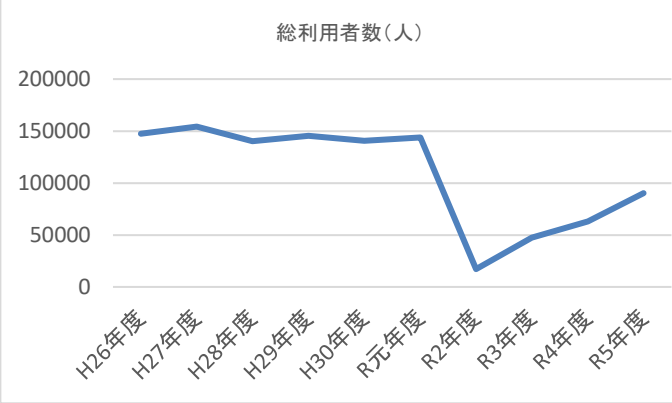
管理形態	指定管理	(株) コングレ	期間	令和5年4月1日	から	
				令和10年3月31日	まで	
事業内容	○施設の利用に関する事業（利用等の承認・不承認・取消、利用料金の収納・減免・還付を含む） ○文化活動及び地域コミュニティ活動に関する相談及び情報の提供に関する事業 ○その他区長が必要と認める事業					
対象者	区民及び施設利用者					
運営時間等	運営時間	午前9時～午後10時まで				
	休日	年末年始（12月29日～1月3日）及び工事、保守点検日				
施設基本データ等		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度（見込み）
	総利用者数（人）	17,149	47,387	63,054	90,249	95,000
	ホール年間利用者数（人）	6,508	21,989	35,013	54,468	60,000
	サロン年間利用者数（人）	4,736	13,601	19,305	24,526	35,000
	ホール稼働率（％）	10	32	52	69	75
	サロン稼働率（％）	21	58	79	82	90
	催し物利用状況（件）	213	656	801	964	1,000
に指定管理料に係る費用	指定管理料（千円）	33,250	56,330	49,455	35,735	47,242
	指定管理者の支出合計（千円）	104,154	96,062	95,846	96,220	102,326
	指定管理者の人件費（千円）	58,962	53,292	46,401	45,544	44,181
	指定管理者の利用料金収入（千円）	28,997	33,112	46,653	58,008	56,518
備考	令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、感染拡大防止のための利用制限が緩和され、前年度と比較して稼働率が向上し、利用者数が増加した。					

行政コスト計算書	勘定科目			R4年度	R5年度	差額	勘定科目			R4年度	R5年度	差額
	行政費用	給与関係費	0	0	0	行政収入	地方税等	0	0	0		
		物件費	53,356	40,392	▲ 12,964		国庫支出金	92	0	▲ 92		
		維持補修費	0	0	0		都支出金	0	0	0		
		扶助費	0	0	0		分担金及び負担金	0	0	0		
		補助費等	9,051	14,875	5,824		使用料及び手数料	0	0	0		
		減価償却費	36,010	36,010	0		その他	36,044	6,089	▲ 29,955		
		不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0		行政収入合計(a)	36,136	6,089	▲ 30,047		
		賞与・退職給与引当金繰入額	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 63,226	▲ 85,188	▲ 21,962		
		その他行政費用	945	0	▲ 945		金融収支差額(d)	0	0	0		
行政費用合計(b)			99,362	91,277	▲ 8,085	通常収支差額(c)+(d)=(e)			▲ 63,226	▲ 85,188	▲ 21,962	
特別費用(g)			0	0	0	特別収入(f)			0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)			0	0	0	当期収支差額(e)+(h)			▲ 63,226	▲ 85,188	▲ 21,962	
貸借対照表	勘定科目			R4年度	R5年度	差額	勘定科目			R4年度	R5年度	差額
	流動資産	収入未済	0	0	0	流動負債		0	0	0		
		不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0		
		その他の流動資産	0	0	0		特別区債	0	0	0		
	固定資産	有形固定資産	109,364	73,354	▲ 36,010	賞与引当金	0	0	0			
		土地	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0			
		建物	1,333,703	1,333,703	0	固定負債	0	0	0			
		建物減価償却累計額	▲ 1,224,340	▲ 1,260,350	▲ 36,010	特別区債	0	0	0			
		工作物等	0	0	0	退職給与引当金	0	0	0			
		工作物等減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0			
		無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	0	0	0			
		建設仮勘定	2,938	54,138	51,200	正味財産	115,302	130,492	15,190			
		その他の固定資産	3,000	3,000	0	正味財産の部合計	115,302	130,492	15,190			
	資産の部合計			115,302	130,492	15,190	負債及び正味財産の部合計			115,302	130,492	15,190
備考	物件費の主な内訳は指定管理委託料である。補助費等の主な内訳はラングウッド駐車場建物管理業務経費等負担金及びラングウッドビル計画修繕補修工事等負担金である。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、計画どおりに工事・修繕等を実施できたことが増額となった主な要因である。											

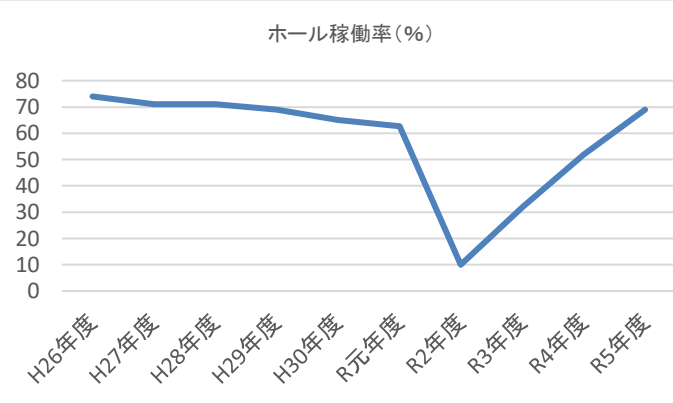
	指標	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	86	89	91.8	94.5	94.5
	1㎡当たりコスト(円)	58,390	60,169	42,990	39,492	39,492
	人にかかるコストの割合(指定管理)(%)	57	56	48.4	47.3	43.2
	受益者負担比率(%)	14	19	32.0	38.2	29.2
	開館1日当たりコスト(円)	375,922	387,373	276,774	254,253	254,253
	利用者1人当たりコスト(円)	7,870	2,935	1,576	1,011	961
	区民1人当たりコスト(円)	621	640	457	420	420
備考	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により稼働率が大幅に低下したため、開館1日当たりのコスト、利用者1人当たりコスト、区民1人当たりコストが増加した。令和3年度以降は、稼働率の回復・上昇に伴い、コストも減少した。					

Ⅳ 施設運営の方向性（所管の考え方）

計画の有無	● 無 ○ 有（計画名： ）					
目標指標	指標名・単位		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
		目標値	7,200	50,000	145,000	90,000
		実績値	17,149	47,387	63,054	90,249
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ○ 民営化 ○ 他施設との統合 ○ 廃止 ● 現状維持 ○ その他()					
管理形態の変更の推移	● 有（変更内容：平成1年度：荒川区地域振興公社へ運営委託、平成18年度：指定管理者制度導入） ○ 無					
利用者・地域のニーズ	施設利用者へのきめ細やかな対応					
現状・課題	○施設全体の老朽化が目立ち始めているため、適切な保守による維持管理に努める必要がある。修繕の実施にあたっては、指定管理者とホテルラングウッドとの連絡・調整が必要である。 ○利用者から日々寄せられる多様化するニーズへの対応が求められる。 ○地域の賑わい創出及び利用者の拡大を図るため、自主事業等の積極的な企画・実施が求められる。					
課題に対する現時点での考え	○関係部署や施設、アートホテル日暮里ラングウッドと調整し、今後の修繕計画について検討する。 ○利用者ニーズに柔軟に対応していけるよう、指定管理者と施設管理やサービス向上策について緊密な連携を図っていく。 ○施設稼働率の向上及び利用者数の増加に向けた取り組みを指定管理者と協議・検討していく。					
議会、利用者等からの意見						



令和2年度は、緊急事態宣言による施設の休館等があったため利用人数が大幅に減少したが、令和3年度以降は感染状況の改善に伴い、増加に転じた。



令和2年度は、緊急事態宣言による施設の休館等があったため稼働率が大幅に低下したが、令和3年度以降は感染状況の改善に伴い、上昇に転じた。